

令和元年度【第3回】島根県県民いきいき活動促進委員会 【議事要旨】

日時:令和2年2月6日(木)

13:30～15:00

場所:島根県庁 講堂

出席状況

○委員(出席 17名)

金野委員長、大森副委員長、小倉副委員長、石橋委員、香取委員、岸委員、猿渡委員、妹尾委員、田原委員、田村委員、中岡委員、中野委員、野々村委員、原田委員、松崎委員、森山委員、若菜委員

○事務局(8名)

松本部長、中川参事、日下課長、山名室長、山本企画幹、小村主任、上野主任、宮前囑託職員

1. 開会

2. あいさつ

松本環境生活部長

3. 報告事項

事務局から以下の内容について、資料に沿って報告。

(1) 島根県県民いきいき活動促進基本方針の改訂について

・パブリックコメントの状況

(2) しまね社会貢献基金制度の改正について

(3) NPO活動推進室の事業

【質疑応答、主な意見】

(1) 島根県県民いきいき活動促進基本方針の改訂について

○人口減少対策として、基本方針に書かれていることを、是非取り組んでいただきたい。

○パブリックコメント意見のNO1は、中間支援事業を行うNPOについて言っているのでは？

→パブリックコメントに寄せられたご意見は、行政と県民の間に位置するNPO等中間支援組織と言っている。分かりやすい文章に修正する。

(2) しまね社会貢献基金制度の改正について

<テーマ事業>

○寄附先テーマの再編など見直しは行わないのか。

→平成28年度よりテーマを11に集約して運用をしている。寄附する側が今のテーマ設定で慣れており、テーマ数は変えない。

○一定期間繰越した寄附のテーマ指定なしへの充当は、寄附者が希望したテーマと違う使われ方になるが、寄附者への説明をどのように考えるか。

→寄附者への説明として現在の申込書にも必ずしも希望通りにならない場合がある、と記載している。

○寄附の際に指定できるのはひとつのテーマだけか。申込の際、複数のテーマを希望して寄附するこ

とができれば寄附しやすくなるのではないかと。

→少額の寄附については対応が難しいが、過去寄附額が高額の際に、複数のテーマに分割して募集した事例はある。

- 寄附が何年も使われずに滞留することを解消することが大事。溜まった寄附の活用を優先すべき。
→いろいろと課題はあるだろうが、まずは事務局提案の方向で進めたい。実施してみて、出てきた課題についてはその都度考えたい。

<委員提案事項の検討状況>

- クレジットカードの決済の今後の状況はどうか。
→現在利用する Yahoo のサービスは令和 2 年 3 月末をもって終了することとなった。引き続きクレジット決済ができるよう何らかの手段を検討している。
- 助成金が減っているなかで、寄附を集めやすい環境としてクレジット決済やクラウドファンディングを整備して欲しい。
寄附から手数料を徴収することについてはその手数料収入の用途を例えば基金の PR に使うなど明確にすることで、寄附者には理解して頂けると考える。引き続き導入に向けた議論を進めて欲しい。
→手数料の導入については、県の同様の制度であるふるさと納税とも整合性を取る形で検討したい。
→委員から頂いた貴重な提案、可能な限り実現していきたい。現状では難しい課題もあるが、継続して議論を進めていきたい。
- 団体活動支援事業の事前審査について、寄附する立場で考えると、寄附の利用目的が明らかな方が寄附しやすい。自分がした寄附が何に使われるか分からないと他の寄附と差別化ができない。事業計画をはっきりさせる事前審査の制度はいいと思う。課題もいろいろあると思うので、まずは、モデル的に行ってみたらどうだろうか。ホームページに現在の寄附額とか分かればよい。
- 実際事業申請する立場である団体のご意見も聞きたい。
- 何に寄附するかと同じくらい誰に寄附するかも大事。2つはセット。
団体が寄附を募る際、事業計画を先に立てて寄附を募るやり方はすでに行っている。
- 活動内容によっては寄附が集まりにくいものもある。
- NPO 側も日頃から寄附を頂いたら新規に何をやるかをいくつか考えておくこと大事。
→ガバメントクラウドファンディングについても引き続き検討したい。
委員の提案がかなうよう、検討進めたい。

4. その他

5. 閉会